C 2　日・韓両国間の親子関係をめぐる比較研究

大阪市大生科（大学院）　○洪　上旭

目的　日本と韓国における小学生の親の養育観，養育態度と小学生のpsycho-sociogenic aspectsを明らかにし，両者を比較，検討しながら，養育観，養育態度及び子どものpsycho-sociogenic aspectsとのかかわりを調べ，親子関係のあり方を探る．

方法　小学校4，5，6年生の児童とその親を対象に，質問紙法で行なった．調査票は親用，子ども用からなっており，その内容は日・韓それぞれの母国語によって構成されている．

結果　(1)親の養育観：親を対象にした親の養育観としつけ観について日・韓両国のそれを比較，検討した結果，同じ傾向を認められる項目も少なくないが，親の子どもに「期待する理想像」親の「人生目標」などについて明確な違いがみられた．その違いは，両国の文化，社会的構造の違いが反映していると考えられる．また，親の「しつけについての自信」子どもについての「満足度」「期待」「学歴」そして「しつけの実際」などの点においてもいくつかの違いが見出された．(2)子どもから見た親子関係：親の態度の日・韓比較を試みたところ，親の子どもに対する不満及び両親間の子どもに対する意見や行動の不一致においては，韓国の親が日本の親より望ましい親子関係を持っており，親の子どもに対する期待，干渉，心配，溺愛，盲従，矛盾の態度指標においては，日本の親が韓国の親より望ましい親子関係を持っていた．(3)子どものpsycho-sociogenic aspectsについて：自立性は日本の子どもにより好ましい傾向がみられ，これに対し，韓国の子どものより好ましい態度は，社会性，集団への参加，自発性，自己統制，公共心であった．